

目次

会社紹介

P3～

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

P12～

2022年3月期 連結業績予想

P23～

今後の事業戦略

P25～

会社紹介

会社紹介

● 会社概要 (2021年9月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	各種電子計測器・産業用電源装置・ ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	10.90%
	菊水取引先持株会	9.99%
	菊水電子工業従業員持株会	4.50%
	株式会社みずほ銀行	4.32%
	小林寛子	4.16%
	日本生命保険相互会社	3.61%
	アジア電子工業株式会社	2.95%
	ケル株式会社	2.64%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.57%
	橋本幸雄	2.25%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	318名(2021年9月末現在) []は前年比増減	
	研究開発:	92名 [± 0]
	生産・購買:	87名 [- 1]
	営業:	111名 [± 0]
	管理:	28名 [- 6]

会社紹介

● 国内外拠点・関連子会社



国内拠点

本社

菊水創発センター(開発拠点)

富士勝山事業所(製造拠点)

営業所: 横浜、仙台、さいたま、名古屋、吹田、福岡(出張所)

子会社

フジテック株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)

1986年6月設立 出資比率: 100%

KIKUSUI AMERICA, INC. (米国カリフォルニア州トーランス市)

2004年10月設立 出資比率: 100%

菊水貿易(上海)有限公司(中国 上海市)

2006年6月設立 出資比率: 100%

会社紹介

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区馬込にて
資本金30万円、従業員6名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証
(当時の写真、51歳)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正則 (相談役)、小林 証 (創業者)、尾崎宗造 (副社長)
渡辺正雄 (取締役)、一柳敏郎、丘崎 隆夫

1957
昭和32年

ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ
計測器がダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波ディケード発振器
ORC-35A
独特のディケード方式
ながら便利な製品であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-804
OEM製造していた
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36~37年

菊水電子工業株式会社
へ社名を変更
専ら計測器・測定器の製造・販売
計測器を中心とした計測器の製造
計測器を中心とした計測器の製造

ダイヤル・ディケード・オシロスコープ 807A
オシロスコープ (100V) / オシロスコープ
オシロスコープ (100V) / オシロスコープ

計測器設計機 PW-107
計測器設計機 PW-107
計測器設計機 PW-107

五反田工場の新築

1966-68
昭和41~43年

第一次創業の年
創立15周年
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の

計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の

計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の

1971-74
昭和46~49年

創立20周年
第一次創業の年
名産品、海外に計測器販売
電子計測機の導入

20周年記念の日本全土展

1981-82
昭和56~57年

米空軍との大型商談
オシロ 7160台 (23億円)
オシロの商談として世界最大の取引
北米米空軍所開設

計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札

計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札

1985-88
昭和60~63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコーニ・インストルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙！
グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が訪かすとも広告だけで
どんどん注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元~3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専属物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式会社店頭市場に新規公開
公募による新株式発行数：75万株
発行価格：2,330円/1株

1989年6月
五川市に
西東京営業所
開設

株式会社店頭の日本本社 (川崎市中原区)
平成3年3月 売上高112億、従業員数386名であった

2000-01
平成12~13年

ISO14001 認証取得
IT(ダブル)推進による業務効率化の
達成によりISO14001
4版ISO9001 1994年型認証取得

2001年発売の4製品がグッドデザイン賞を受賞！

GOOD DESIGN
AWARD 2001

計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の

1995
平成7年

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001 認証を取得
登録証番号 JGA-1100

計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の
計測器の製造・販売・サービス、計測器の

会社紹介(事業概要)

● 事業活動トピックス



<中国>



<米国>



<欧州>

<新製品>

- ・KHA1000(EMC)
- ・PLZ6000R(回生負荷)
- ・TOS3200(漏洩電流試験器)
- ・PWR、PCR-Mラインアップ追加



<経営施策>

・PATスマートラック

・国内営業所統廃合

2006

・菊水貿易(上海)設立(販売拠点)



・グローバル製品上市(PCR-Mシリーズ)



2007



- ・KHA3000(EMC)
- ・PFX2511(バッテリー充放電試験システム)

- ・TOS5300シリーズ(耐電圧・絶縁抵抗試験器)
- ・Milla-E50(電気自動車(EV)急速充電器)

2008

・菊水貿易(上海)の分公司統廃合
・生産拠点の合理化(菊水電子(蘇州)閉鎖)

・欧州代理店網再編…
・Electronica 2008出展

2009

- ・PCR-LEシリーズ(高機能交流電源)
- ・PWXシリーズ(薄型直流電源)

・創立60周年記念行事

2010

・Electronica 2010出展

2011

- ・PCR-LE、PWXラインアップ追加
- ・Milla-E20(電気自動車(EV)急速充電器)



2012

・Electronica 2012出展

- ・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器)
- ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充

2013

・深圳分公司設立

2014

・Electronica 2014出展

- ・TOS7210S(PID絶縁試験器)
- ・TOS5200(耐電圧試験器)



- ・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)

2015

- ・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)

・富士勝山事業所にデモルーム開設
・Webサイト「KIKUSUI mag」開設

2016

・Electronica 2016出展



- ・PWR-01シリーズ(直流電源)

・本社移転

2017

・ソリューションWEBサイト開設

・ソリューションWEBサイト開設

- ・PCR-WE/WE2シリーズ(交流電源)



2018

・北京分公司設立

・トーランス市に移転

・Electronica 2018出展

- ・TOS9300シリーズ(電気安全規格試験マルチアナライザ)



2019

・ドイツ駐在員事務所を開設

- ・PAN-Eシリーズ(直流電源)

2020

会社紹介

● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)

[顧客]



メーカー

(電機・電子機器、電子部品、自動車)

研究

開発・設計

生産

検査

メンテナンス

公的研究所・機関
教育機関(大学等)

工業試験所
(テストラボ)

公的機関
(防衛、警察等)

グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、自動車のノイズ耐性(EMC)に関する試験、またEV用バッテリーの絶縁性能試験の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、ハイブリッドカー・電気自動車の評価に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、パワーコンディショナーなどの評価に必要な交流電源の需要が高まっています。

直流電源



交流電源

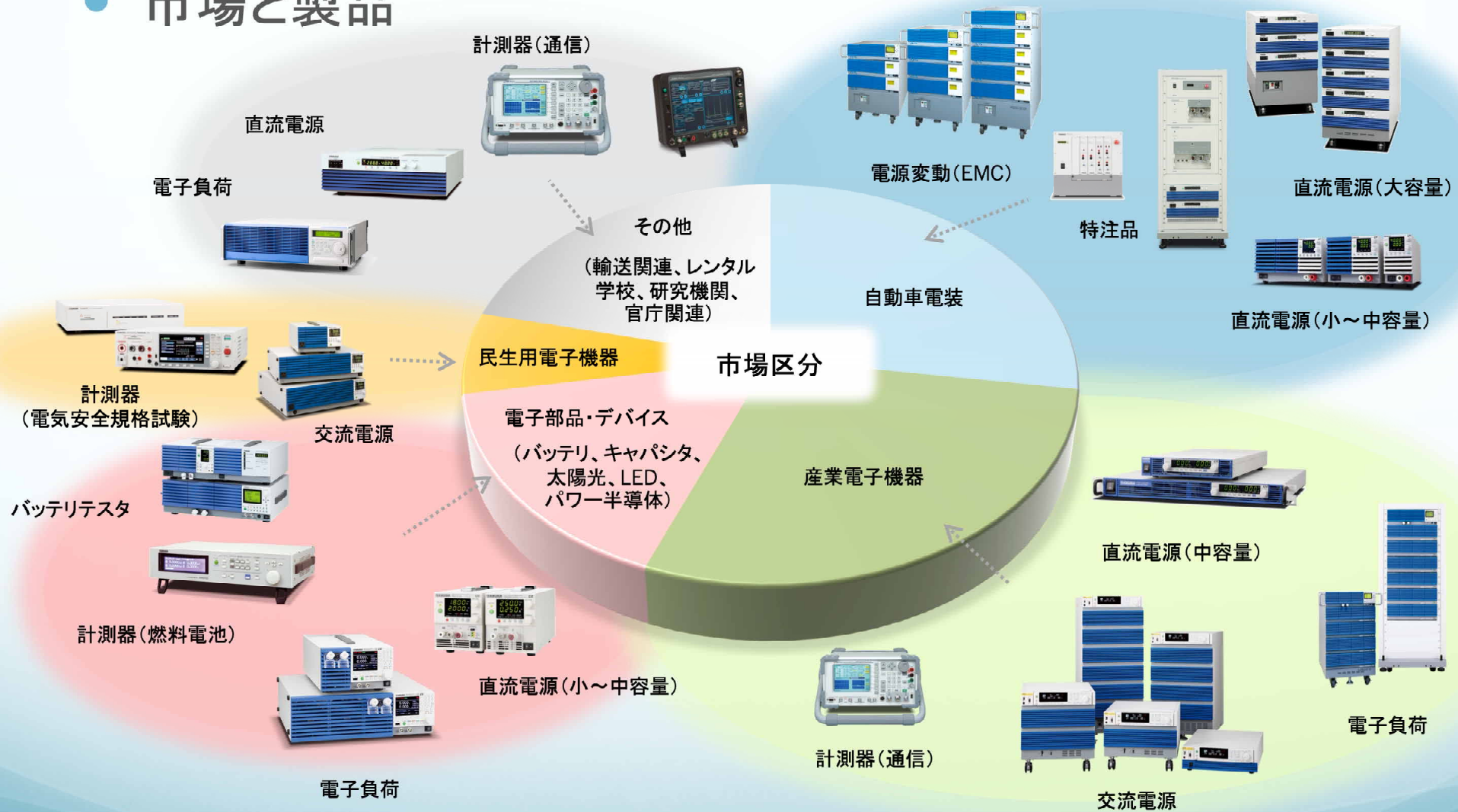


電子負荷



会社紹介(事業概要)

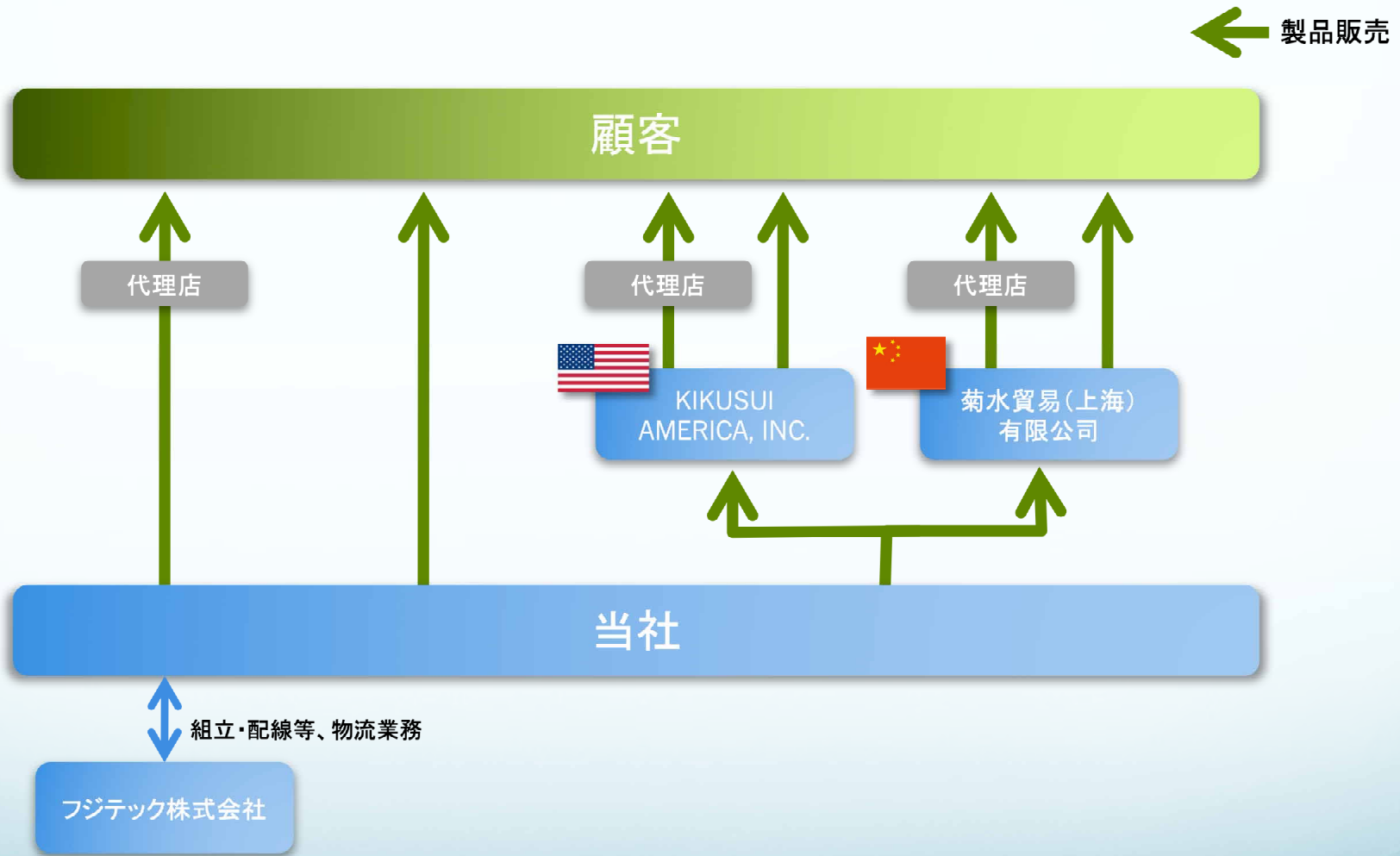
● 市場と製品



(2021年3月期実績による)

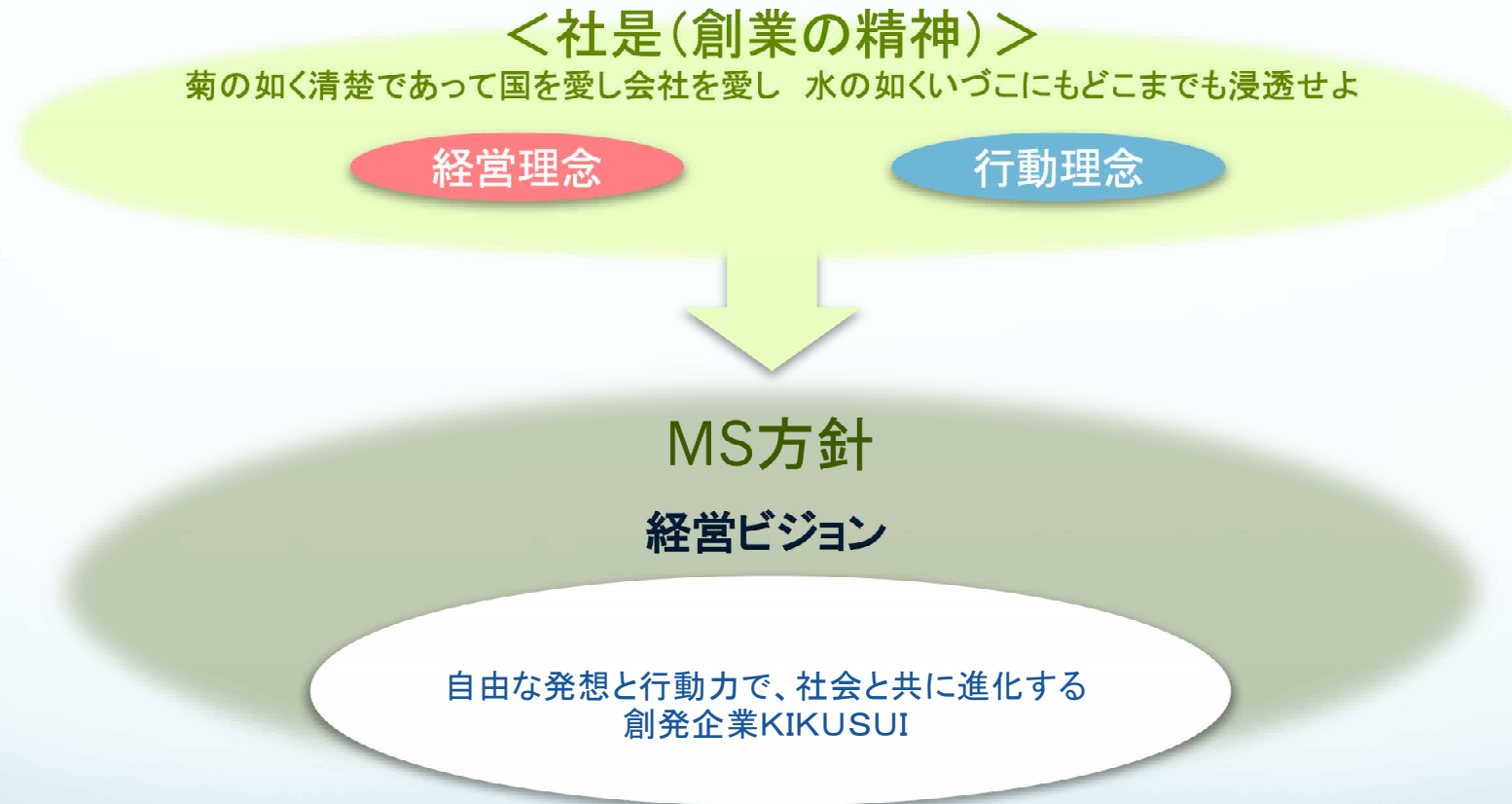
会社紹介

- 事業系統図



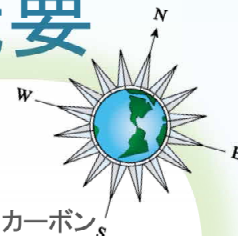
会社紹介

- コーポレートステートメント



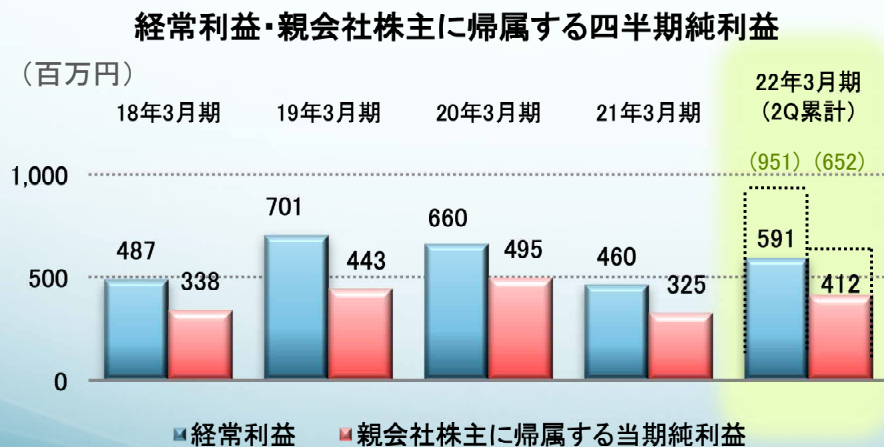
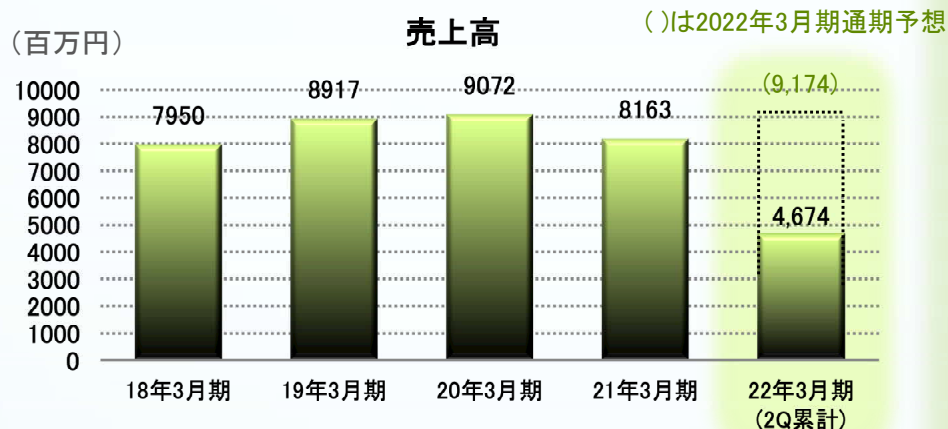
2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、世界各国でのカーボンニュートラル実現に向けた取り組み等により、自動車関連市場や半導体関連市場、また、5G(第5世代移動通信システム)関連市場など、グローバルで需要の回復が進んでおりますが、半導体や電子部品等の需給逼迫の影響が拡大してきております。

このような状況の中、当社グループは、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、営業活動の制約を受けたものの、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めると共に、半導体や電子部品の供給不足の影響を受ける中、部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高の大幅な増収により、46億7千4百万円(前年同四半期は34億9千8百万円)となりました。

損益面におきましては、

営業利益5億6千万円(前年同四半期は6千2百万円の営業損失)、
経常利益5億9千1百万円(前年同四半期は3千7百万円の経常損失)、
親会社株主に帰属する四半期純利益4億1千2百万円(前年同四半期は1千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は6千2百万円、営業利益は7百万円それぞれ減少しております。また、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益計算書

	21年/3月期(2Q累計)		22年/3月期(2Q累計)		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	3,498	100.0	4,674	100.0		
売上原価	1,724	49.3	2,238	47.9		
売上総利益	1,773	50.7	2,435	52.1		
販売費及び一般管理費	1,836	52.5	1,875	40.1		
営業利益又は営業損失	△62	△1.8	560	12.0		
営業外収益	43	1.2	50	1.1		
営業外費用	18	0.5	20	0.4		
経常利益又は経常損失	△37	△1.1	591	12.6		
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失	△37	△1.1	591	12.6		
法人税等	△19	△0.6	178	3.8		
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属す る四半期純損失	△17	△0.5	412	8.8		
1株当たり四半期純利益	△2.17円		49.59円			

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用し、当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減額及び増減率は記載していません。

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 4,674百万円
【前年同期 3,498百万円】
- 経常利益: 591百万円
【前年同期 経常損失 37百万円】
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益: 412百万円
【前年同期 四半期純損失 17百万円】



Point



新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、営業活動の制約を受けたものの、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動を進めるなど売上拡大に努めると共に、半導体や電子部品の供給不足の影響を受ける中、部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高の大幅な増収により、46億7千4百万円(前年同四半期は34億9千8百万円)となりました。

損益面におきましては、営業利益5億6千万円(前年同四半期は6千2百万円の営業損失)、経常利益5億9千1百万円(前年同四半期は3千7百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益4億1千2百万円(前年同四半期は1千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は6千2百万円、営業利益は7百万円それぞれ減少しております。また、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- 電子計測器: 1,112百万円
【前年同期 707百万円】
- 電源機器: 3,366百万円
【前年同期 2,636百万円】
- その他: 195百万円
【前年同期 154百万円】

Point



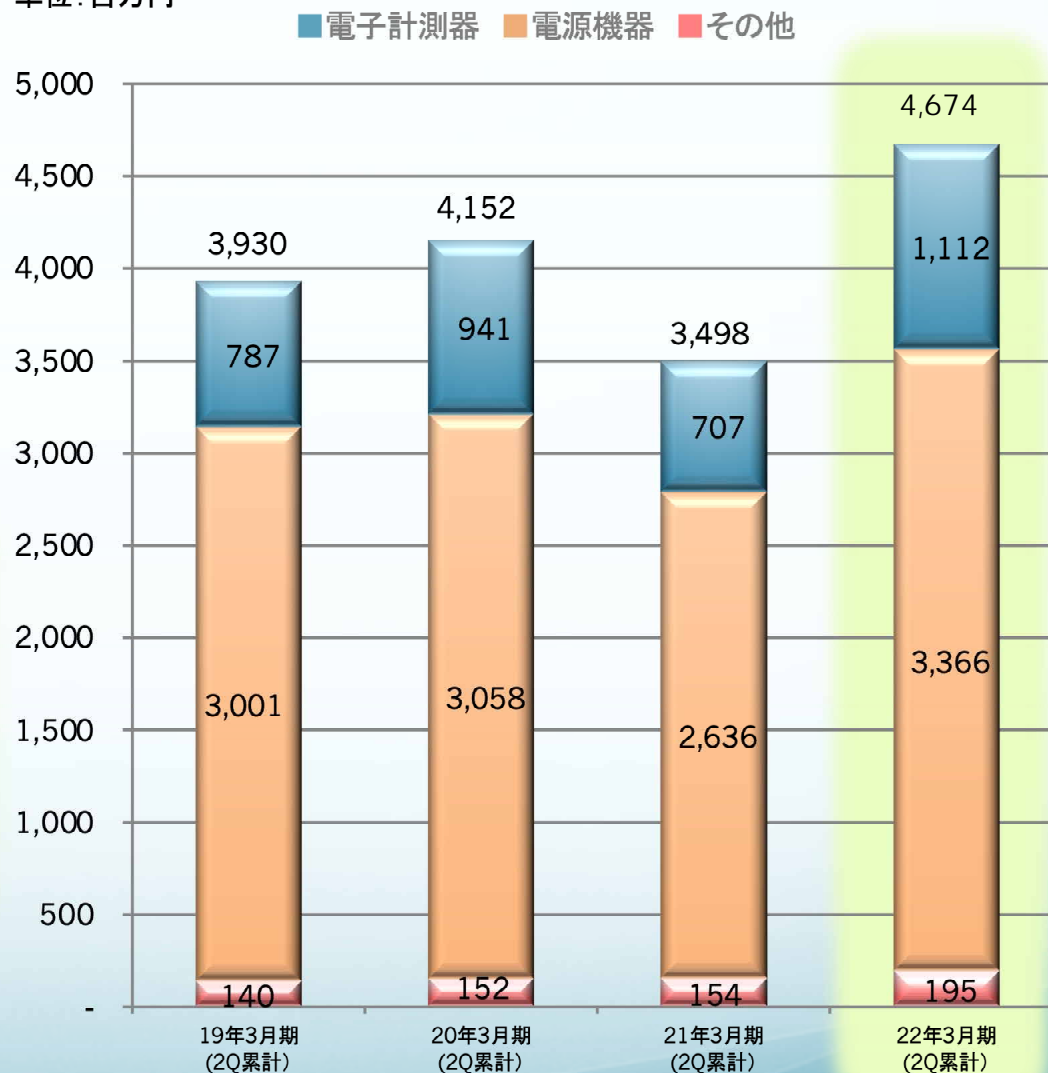
「電子計測器群」

航空機器用電子機器の測定器に動きがありました。また、安全関連試験機器は、EV(電気自動車)用バッテリーの耐電圧・絶縁試験抵抗試験器として電池関連市場向けに大きく伸長いたしました。

「電源機器群」

直流電源は、宇宙産業市場、次世代車載関連市場、半導体関連市場、5G関連市場及び電子部品市場への評価試験や製造設備用として大きく伸長いたしました。交流電源は、次世代車載関連市場、ICT関連市場やエネルギー関連市場への評価試験や製造設備用として大きく伸長いたしました。電子負荷装置は、次世代車載関連市場への評価試験用として大きく伸長いたしました。

単位: 百万円



2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器: 23.8%
【前年同期 20.2%】
- 電源機器: 72.0%
【前年同期 75.4%】
- その他: 4.2%
【前年同期 4.4%】

Point



電子計測器の構成比率が増加し、電源機器の構成比率が減少しました。

■ 電子計測器
■ 電源機器
■ その他



● 製品群別売上総利益率

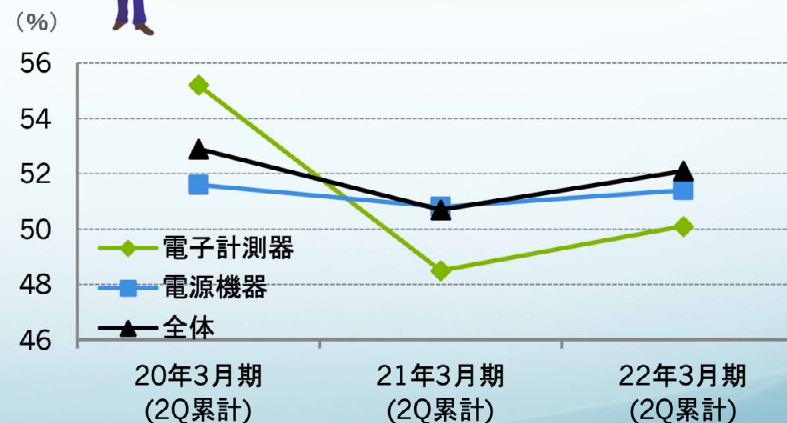
- 電子計測器: 50.1%
【前年同期 48.5%】
- 電源機器: 51.4%
【前年同期 50.8%】

売上総利益率: 52.1%
【前年同期 50.7%】

Point



原価低減と経費節減に努力を重ねた結果、売上総利益率が増加しました。



2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 海外売上高

- 北米:344百万円
【前年同期 189百万円】
- 欧州:193百万円
【前年同期 147百万円】
- 中国:1,153百万円
【前年同期 541百万円】
- その他アジア:643百万円
【前年同期 320百万円】
- その他の地域:10百万円
【前年同期 2百万円】

海外販売高合計:2,345百万円
【前年同期 1,201百万円】

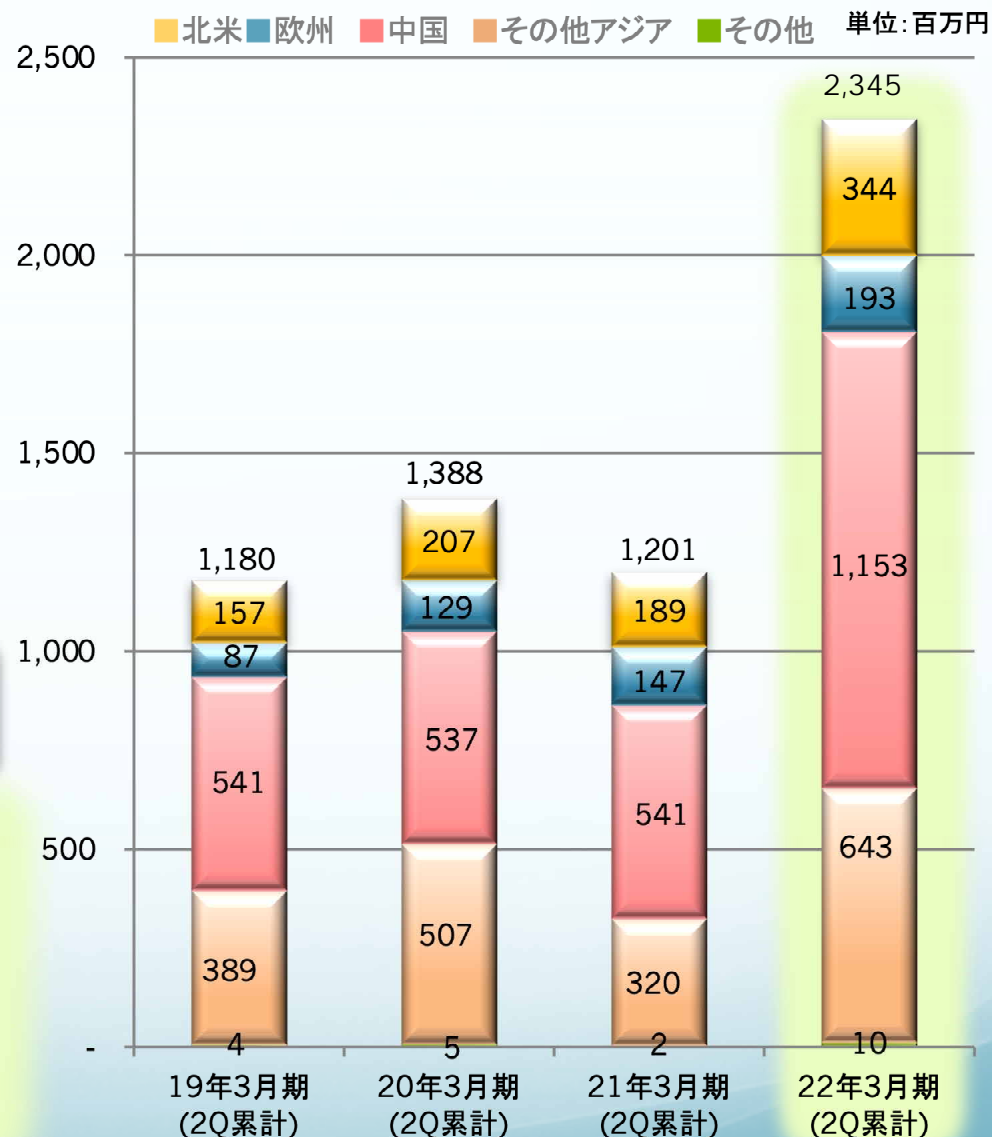
Point



米国では、宇宙産業市場への直流電源に動きがありました。また、グリーンエネルギー政策により需要が拡大しているエネルギー関連市場への交流電源及び設備投資が好調な半導体関連市場やICT関連市場及び宇宙産業市場への電子負荷装置が大きく伸びました。

欧州では、一般的に動きがあり、特にパワー半導体関連市場への直流電源や車載関連市場への電子負荷装置が好調に推移しました。

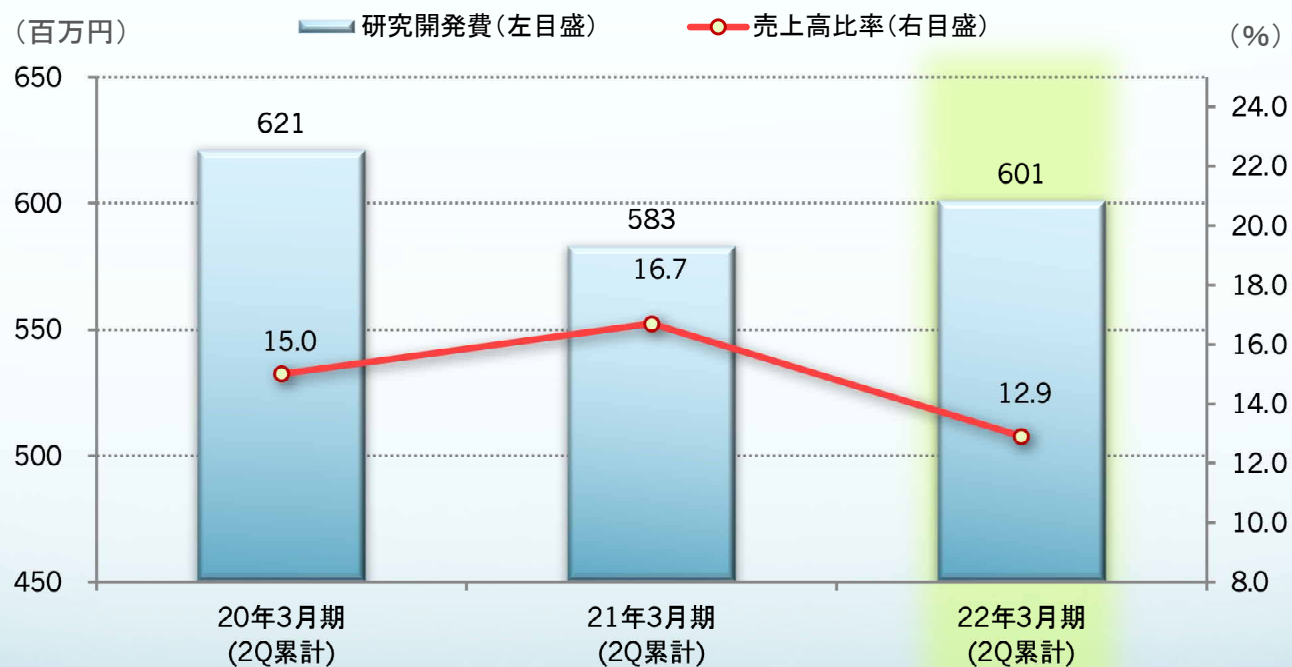
アジアにおいては、中国では、自動車のEV化が加速する中、電池関連市場への安全関連試験機器並びに旺盛なインフラ需要による5G関連市場や半導体関連市場への直流電源がそれぞれ大きく伸びました。一方、韓国では、次世代車載関連市場への交流電源及び電子負荷装置が好調に推移し、東南アジアでは、ICT関連市場への交流電源や車載関連市場への電子負荷装置が好調に推移しました。



2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

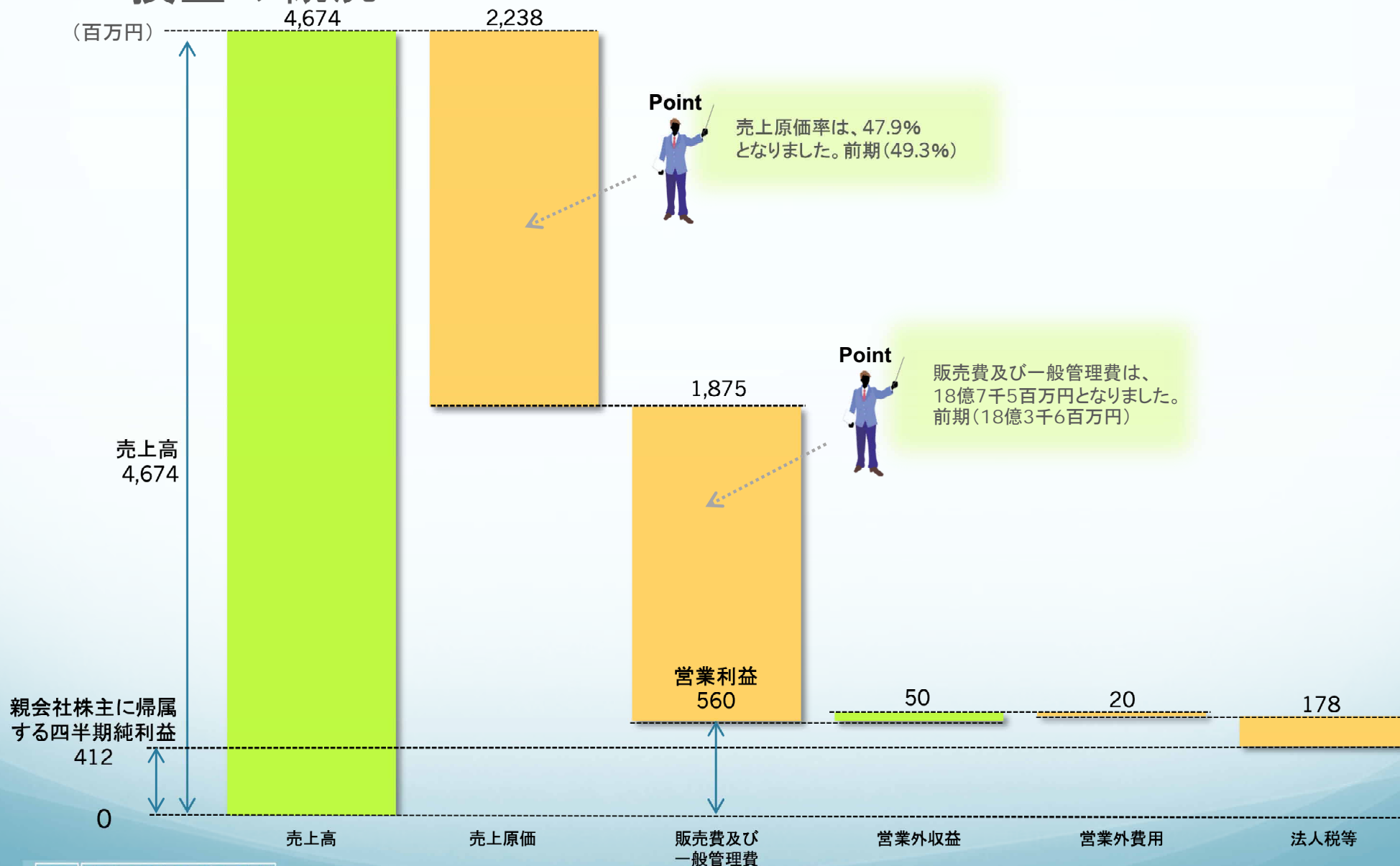
● 研究開発投資 (対売上高比率)

- 601百万円(12.9%)
【前年同期 583万円(16.7%)】



2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益の概況



2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 貸借対照表

(百万円)

【資産の部】	21/3/31	21/9/30	増減
流動資産合計	7,019	7,608	
固定資産合計	4,967	5,115	
資産合計	11,987	12,723	
【負債の部】	21/3/31	21/9/30	
流動負債合計	1,439	1,709	
固定負債合計	557	599	
負債合計	1,997	2,309	
【純資産の部】	21/3/31	21/9/30	
資本金	2,201	2,201	
資本・利益剰余金	7,977	8,234	
自己株式	△789	△774	
その他の包括利益累計額合計	599	752	
純資産合計	9,989	10,414	

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用し、当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減額は記載していません。

2022年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円	19年/9月期	20年/9月期	21年/9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	250	497	279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△179	△237	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△191	△192	△168
現金及び現金同等物の増減額	△130	68	73
現金及び現金同等物の期首残高	2,206	2,464	3,088
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,076	2,532	3,161

Point



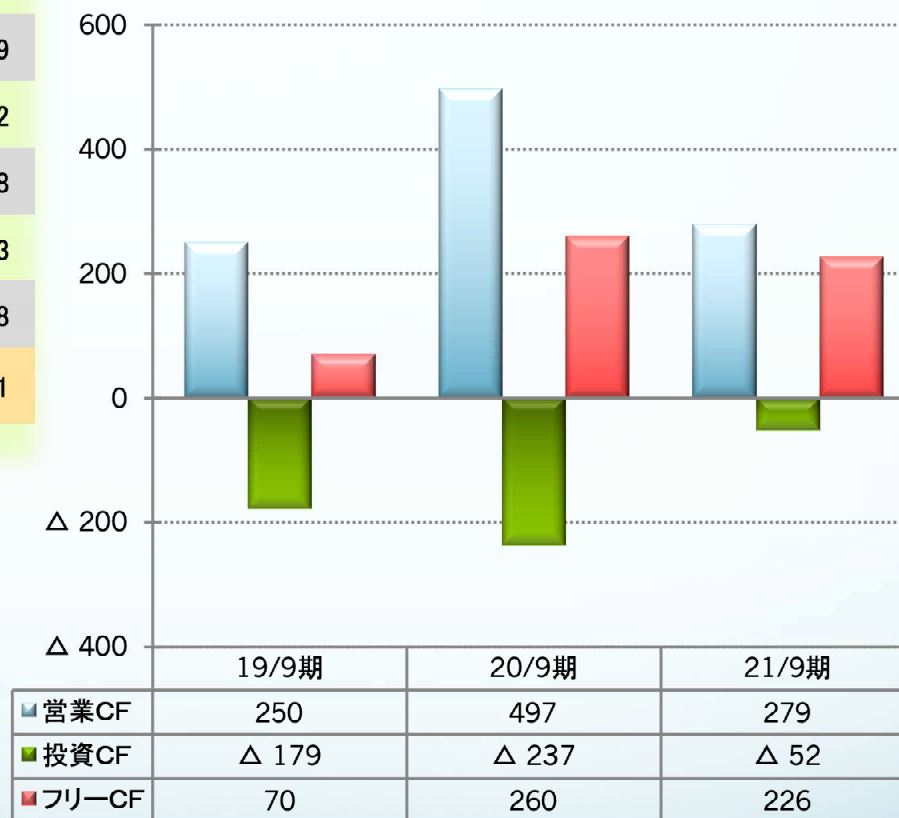
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上等による資金の増加が、棚卸資産の増加等による資金の減少を上回り、2億7千9百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による資金の減少が、有価証券の売却等による資金の増加を上回り、△5千2百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、△1億6千8百万円となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、7千3百万円増加し、31億6千1百万円となりました。

(百万円)



2022年3月期 連結業績予想

2022年3月期 連結業績予想

	21年/3月期		22年/3月期	
	通期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	8,163	9,174		
営業利益	418	900		
経常利益	460	951		
親会社株主に帰属する 当期純利益	325	652		

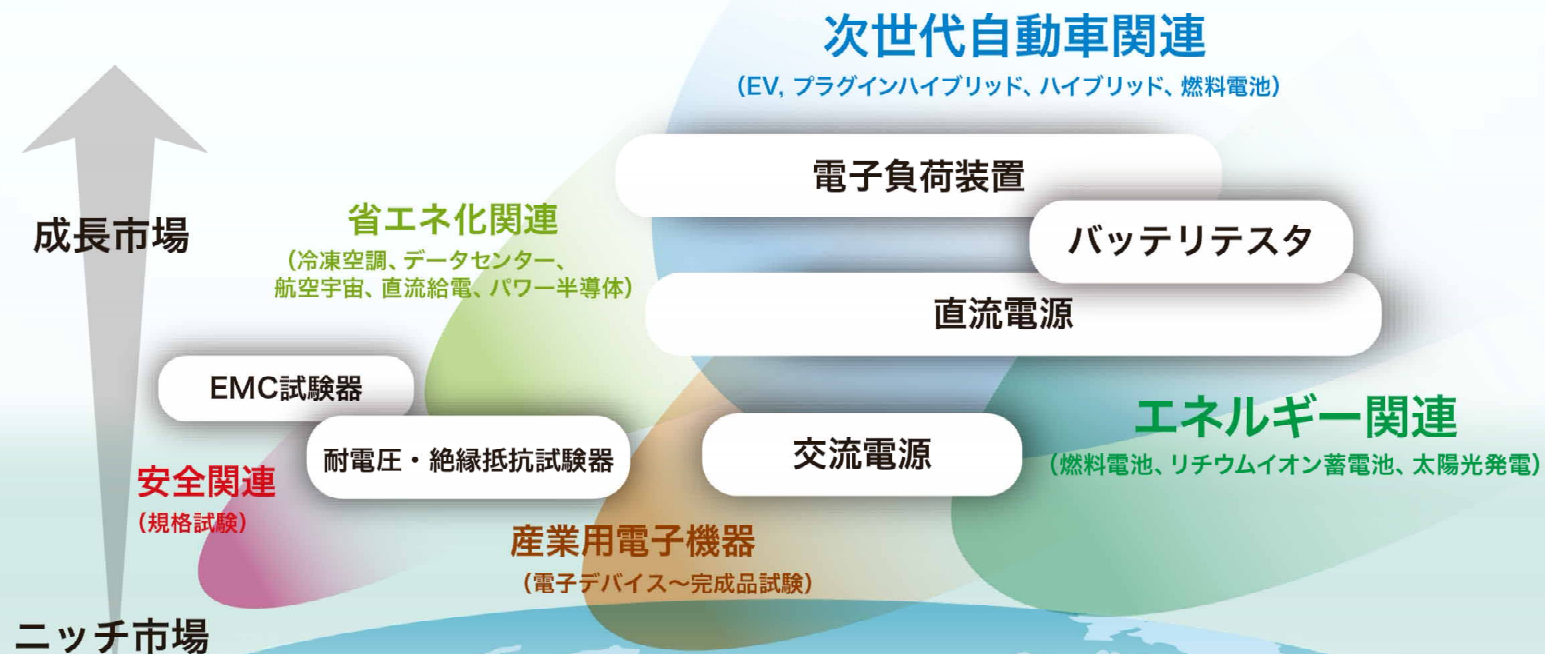
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用するため、連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減額及び増減率は記載しておりません。

	21年/3月期		22年/3月期	
	通期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)	
1株当たり 配当金	20.00	23.00	3.00	

今後の事業戦略

今後の事業戦略

EV関連とエネルギー分野に注力



米国、アジアを中心に海外市場拡販を強化！

本資料における注意事項

本資料は、2022年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2021年10月28日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL: 045(482)6912 E-mail: ir@kikusui.co.jp URL: <http://www.kikusui.co.jp/>